

[閉じる](#)

現代英米文学特殊講義ⅠA

| | |
|----------|-------------------|
| サブタイトル | イギリス近代の風刺と文学 |
| 担当者名 | 大石 和欣 |
| 単位 | 2 |
| 年度・学期 | 2020 春 |
| 曜日時限 | 月2 |
| キャンパス | 三田 |
| 登録番号 | 30948 |
| 設置学部・研究科 | 前期博士課程（修士課程）文学研究科 |
| 設置学科・専攻 | 英米文学専攻 |
| 学年 | 1,2 |
| 分野 | 修士課程科目文学研究科科目 |

授業科目の内容・目的・方法・到達目標

この授業はZoomを用いたオンラインで行います。履修希望者は教員までご連絡ください（kazoishi@keio.jp）。ZoomのURLと資料をメールでお送りします。

授業内容としては、18世紀から19世紀末までのイギリスにおける風刺文学をとりあげ、ジャンルとしての意義を社会背景とともに考えていきます。

風刺はギリシア・ラテンの古典文学において、政治や社会だけではなく、人間存在そのものを批判しつつ、実態と真相を暴きだす文学ジャンルでしたが、イギリス近代においても、さまざまな形で文学作品に風刺が取り込まれていくことになりました。風刺やアイロニーやユーモアとともにイギリス文化（言語文化）の重要な一側面です。この授業では、風刺の伝統を俯瞰しながら、18世紀から19世紀において風刺が文学領域においてどのように機能していたかを具体的な作品に沿って考察していきます。また、文学に並行して発展した絵画における風刺についても、とりあげることで、風刺についての理解を深めることを目的としています。

授業では風刺の概念と定義について、パロディーといった関連概念・ジャンルとの比較しつつ、特徴やレトリックなどを確認したのち、代表的な作品を一つ一つとりあげて、精読していきます。文学としての風刺の意義を現代的な観点から再考します。

授業の計画

第1回

風刺の伝統と概論－特徴と意義、レトリック
パロディーなどの類似概念・ジャンルとの比較

第2回

古典的風刺
ホラティウスとユウェナリウス

第3回

ジョナサン・スウィフト
『ガリバー旅行記』と『桶物語』

第4回

サミュエル・ジョンソン
『ロンドン』、『人間願望の虚栄』

第5回

ローレンス・スターン
『トリストラム・シャンディ』

第6回

絵画の風刺
ウィリアム・ホガース、ジェイムズ・ギルレイ

第7回

ロマン主義時代の風刺
チャールズ・ラム、トマス・ラヴ・ピーコック、バイロン卿

第8回

パロディーと風刺
ジェイン・オースティン『ノーサンガー・アビー』

第9回

『パンチ』
ヴィクトリア朝の風刺と文学

第10回

チャールズ・ディケンズ
『ボズのスケッチ』、『ピクウィック・ペーパーズ』

第11回

ウィリアム・メイクピース・サッカレー
『虚栄の市』

第12回

アントニー・トロロープ
『ありし日の思い出』

第13回

オスカー・ワイルド
『レイディ・ウィンダーミアの扇子』

その他

総括と課題

成績評価方法

出席（50％）、発表（25％）、レポート（25％）

テキスト（教科書）

とくになし。

参考書

最初の授業でリスト配布。

担当教員から履修者へのコメント

抜粋を精読します。抜粋については事前に配布します。教員(kazoishi@keio.jp)へご連絡ください。Zoomを用いたオンラインでの授業になります。

<https://zoom.us/j/988862571?pwd=R2lRZTMvZXc0ZHpFL3EvazBwbWlJUT09>